



術後に国産ロボットリハビリを導入

ロボットといえば、東日本大震災時、原子力発電所内の人が作業できない状態の中、ロボットの活躍が必要になったことは記憶に新しいと思います。我が国はロボット先進国と自負していましたが、残念ながら実際はこういった災害時にすぐに実用化できるものがなかったことは嘆かわしいことでした。

最近では、Google, Amazon, Softbankなどといった、この10年に世界を席卷してきた企業がこぞってロボット開発に傾倒してきています。そして、多くの人々が、次の時代はロボットが我々の生活を変えると考えるようになってきました。

さて、医療現場でロボットといえば、今のところ日本はトップランナーです。特に、リハビリテーションや介護の分野での開発はめざましいものがあり、サイバーダイン社の山海氏が開発したHALというロボットは、脳梗塞や脊髄損傷の患者のリハビリテーションに有用になってきています。まだまだ改良が進められており、今後さらに発展が期待できると思われます。

『歩行アシストロボット』を使用したロボットリハビリテーション

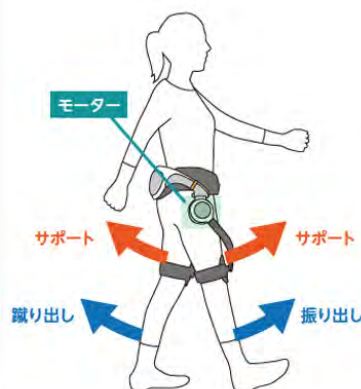
今回、我々のセンターでは、あのアシモ（本田技研社製）で培った技術が凝集された『歩行アシストロボット』を人工股関節患者さんに使用し、良好な結果と患者さんの満足を得ました。2014年春、神戸で開催された日本で最高峰の学会である日本整形外科学会でも、その結果を報告しています。その内容の大筋は、これまで股関節が痛んでいる患者さんは、中殿筋という股関節を安定させる力だけが落ちていると考えられ、その筋肉を鍛えることが大事と考えられていました。しかし、実は、股関節を長年痛めている患者さんは、股関節を上げる力が落ちたり（腸腰筋の筋力低下）、固くなったりしています。そこで、このロボットを使用し、

この股関節をあげる力をアシストしながら歩行するリハビリテーションを行うことで、手術後1週間という早期で回復することが可能となったというものです。

今後も、さらに、本田技研とも協力しながらロボットリハビリテーションを進めていき、手術後も安心してリハビリテーションを受けられ、患者様により良い治療を提供できるように努めていきたいと思っています。



アシモ技術を応用した
本田技研社製『歩行アシストロボット』



足をあげようとする
その動作をアシストする

人工関節センターでは、手術後の早期回復のため、
『歩行アシストロボット』を使ったリハビリテーションを行っています。